

C&C 30周年記念シンポジウム

「C&C 宣言30周年を迎えて」



(財) NEC C&C財団理事長
NEC 代表取締役会長
佐々木 元

1977年、NEC小林宏治会長(当時)が「コンピュータ技術とコミュニケーション技術の融合」を意味する「C&C」という新しい概念を提示しました。30周年の今年、NECはNEC C&C財団との共催で12月6日に記念シンポジウムを開催致しました。佐々木元(財)NEC C&C財団理事長/NEC代表取締役会長のご挨拶で始まり、「これからのC&C」を共通テーマとして、2006年度C&C賞を受賞した坂村健東京大学大学院情報学環教授の基調講演、続いて江崎浩東京大学大学院教授、金子郁容慶應義塾大学大学院教授、渡邊浩之トヨタ自動車技監らをお迎えしたパネルディスカッションが行われました。(文中、敬称は省略)

C&C 宣言30周年を迎えて

1977年10月10日、米国ジョージア州アトランタで開催された国際通信展「インテルコム77」で、NECの小林宏治会長(当時)は基調講演の中で、「コンピュータ技術とコミュニケーション技術の融合」という構想をC&Cとして示し、「21世紀の初めには、誰でも、いつでも、地球上のどこでも顔を見ながら話しができるようになる、その実現のために通信、コンピュータ、テレビ放送技術の統合が必要である」ことを示唆されています。通信技術・方式がデジタル化されてコンピュータと同じ性質のものになり、コンピュータは通信回線を介してオンライン化・分散処理化されるようになる。C&Cは、人間の情報伝達能力の制約を取り除き、能力の限界を軽減するための技術と定義され、現代のユビキタス社会を予見したものでした。

その後C&Cは技術の方向を示す概念から事業領域を示すものへと発展し、1990年に発表された企業理念の中でも、「C&Cをとおして人類に貢献する」決意が示されています。また、NEC C&C財団を設立しC&C分野における功労者の顕彰、研究開発の奨励、助成などを通じて、世界のエレクトロニクス産業の発展と人々の生活の向上に貢献してきました。

NECはこの30年間にC&C技術の高度化の成果を活用して、例えば宇宙観測・地球観測システム、「iモードサービス」を支えるミッションクリティカルシステム、そして携帯電話による自動通訳などの数々のイノベーションを実現しました。

これからのC&C30年の方向性は、「シンビオティック・イノベーション」という言葉で表されるように、「人を中心とし、環境、エネルギー、モノが有機的に結合していく社会」の実現にあります。言い換えれば人とICTの共生による新たな生活スタイルの創出であり、その実現に向けて貢献していきたいと考えています。

*本稿は、C&Cユーザーフォーラム&iEXPO2007において、2007年12月6日のC&C30周年記念シンポジウムにおける(財)NEC C&C財団理事長/NEC 代表取締役会長 佐々木 元の開会挨拶の内容を、NEC技報編集事務局にてまとめたものです。



インテルコム77における
小林宏治会長(当時)のC&C宣言